

目的 乳幼児のパジャマは着用により汚す回数が多いので、洗濯の頻度が高く次第に型くずれが生じやすい。そこで洗濯による収縮を調べるために被験者による市販パジャマの着用・洗濯をくり返す実用試験と市販のパジャマ用生地をくり返し洗濯による収縮試験とを試みたところパジャマの洗濯による収縮に関してニ、三の知見を得たので報告する。

方法 実用試験については市販幼児用パジャマ7種を被験者(3,4,5才児男女各1名とその母親)により着用後、各家庭で通常実施している方法により洗濯、乾燥を1着について20回くり返した。収縮試験については市販パジャマ向きの生地4種および実用試験を行った7種のパジャマ地についてJIS L1042のG法およびタンブル乾燥機法に準じた試験方法による洗濯乾燥試験を20回くり返し、収縮率を測定した。

結果 パジャマの洗濯による型くずれが著しい。特に目立つのは収縮であるが部位によっては著しく伸びる場合もある。これらの型くずれの原因は素材の繊維組成や組織、縫製等によると考えられる。右図は4種の生地と2種の市販パジャマの収縮試験の結果を示したものであるが、繊維組成や組織により収縮率が変化することになる。

